

ついに完成しました！ 7か月間お疲れ様でした。

昨年の9月の保護者会総会で、アトムの新築と建て替えの話をし、その間の保育の場所がどうなるのか、不安のスタートでしたが、みなさんのご協力で7か月間の保育も無事過ごすことができ、建物も完成しました。

この建物に決定するまでに大幅な設計変更を3回行い、最後は職員の投票で決定しました。

4月から週1回のペースで設計者、施工業者、私と3者の25回の合同会議を重ね、完成に至りました。

つばさをベースにそして更に進化した建物をという保護者、職員の意向に沿うように考えてやってきましたが、今後何かと気づく点があるかと思えます。これは第1段階の建物と考えております。今後第2、第3と保育内容と同じく、建物にもみなさんの思いを吹き込んで改造をしていって下さい。

本当に7か月間お疲れ様でした。そしてありがとうございました。

(以下の文章は11月2日の竣工式典の挨拶文です。)

ご挨拶

社会福祉法人アトム共同福祉会
理事長 市原 悟子

本日アトム共同保育園の竣工式典に公私ご多忙のところ、中西町長をはじめ関係各位、機関、団体地域の皆様方のご臨席をいただきありがとうございます。厚くお礼申し上げます。

アトム共同保育園の新築と建て替えの経緯、運営のご報告を含めご挨拶とさせていただきます。

アトム共同保育園は、2003年4月、熊取町立第6保育所を社会福祉法人アトム共同福祉会が譲り受け運営することとなりました。この10年、旧町立第6保育所の土地、建物を大規模な修理補修を重ねながら運営してまいりました。(いくつかエピソードを挙げますと、開園時の夏は大型台風に見舞われ、天井から滝のような雨漏りを経験しました。給食で電気器具を使うたびにプレーカーが落ちることもしばしばで、200名余の子ども・大人が使用するためトイレが詰まることも度々でした。建物の傾きで保育室の戸の不具合、ホールの床の傾斜、下水管のひび割れ等々、これまで園舎の修繕に約3000万を要しました)

その上、耐震構造の建物ではなかったことで、大きな不安を抱えながらの日々でした。

熊取町との協議を重ね、今年4月やっと建て替え工事に着手できました。

建て替え工事には近隣住民の方々のご理解、ご協力がなければ実現できませんでした。近隣の方々には、取り壊しから竣工に至る工事のため、長期にわたってご迷惑をおかけしました。ここに改めてお詫びいたしますとともに、深く感謝いたします。

建て替えにあたっては、在園児の保育をどうするかが大きな課題でした。幸い中西町長はじめ町役場の方々、町議会議員の方々、町立東保育所の保護者の方々のご協力で東保育所の保育室をお借りすることができ、保護者の求める保育事業と並行して建替え工事を行うことができました。

3月までのアトム共同保育園在園児の本年4月からの保育は、姉妹園のつばさ共同保育園へ71名、町立保育園に10名、さくら保育園に1名、そして東保育園の中でのアトム共同保育園に32名と分散して行うことができました。特にこの7か月間東保育所の方々には大きな不便をおかけしたことと思えますが、東保育所の保護者会の方からは、「こんな機会に子どもたちが交流できたらいいね」という声をかけていただきました。この場をかりて、東保育所の子どもたち・保護者、職員のみなさんに改めてお礼を申し上げたいと思います。

民間保育所の建て替えに公立保育所の保育室を使うことは前例がない。アトムの敷地内にプレハブを建てるべきとの声も、一時期あったように聞いております。しかし、私は公立も民間も同じ税金を使つての運営であり、プレハブで建てる為には莫大なる経費を投入することは、結局において税金の非効率的な使用となると考えました。結果として、東保育所をお借りして、公民協同でこの建替え工事中の対応ができたことは、公的施

設の有効的活用であり、効率的な税金の活用となったと考えております。この点でも、町長はじめ役場のみなさん、町議会議員のみなさんのご見識とご判断に敬意を表したいと思っております。

次に建物の説明をさせていただきます。

アトム共同保育園の新園舎は、さきに関園したつばさ共同保育園の建物を更に進化させた建物です。

第一の特徴：和む空間

木材を基調とし、照明器具、照度にも工夫しました。長時間過ごす子どもたちが安心できる空間、職員にとっても緊張感が少しでも緩和できる空間を考えました。子どもの成長に伴い部屋の使い方を考えることができるように3グループの保育室とし、それぞれの保育室は遊び、食事、午睡室と機能を分けて使うことができます。トイレは子どもにとって「クサイ・クライ・コワイ」場所と思いがちですが、保育室内に設置したことでそれらを克服しました。

第二の特徴：駐車場横に地域交流の場所『わいわいホール』を設置

大人同士の関係をつくるのが地域をつくることだと考えております。府営住宅、1戸建て住宅、公社と3層の人の集積地域にあるアトム共同保育園、地域の方々も気軽に立ち寄ることができ、交流のできる場所として考えております。

「子どもは地域の宝」として地域のみんなで育てていた、かつての日本の地域の風景。沢山の大人に育てられた子どもには、自分が大切にされたという実感が心の奥に残り、他人を大切に、そして地域、社会を担うという自覚をもった大人に育っていくでしょう。そのように育てて欲しいものです。

多くの大人たちが、子どもを大人に育て、その大人が、また子どもを育てるという循環を生み出すために、このアトム共同保育園、そしてその象徴的施設としての『わいわいホール』を活用していただければと願っております。

第三の特徴：環境問題を考えて

太陽光発電、空気循環装置、シーリングファン、雨水タンクを設置しております。天井を高くし、夏は涼しい風を、冬は暖かい空気を保育室に取り入れる工夫がなされています。

このようなすばらしい園舎を設計するうえで、株式会社 VANS の大矢さん、伴さんは、半年以上毎週2,3時間の会議で、私たちの夢や希望に耳を傾け、そのたびに新たな設計図を描いてくださいました。職員と議論に議論を重ねてこの建物に至るまでには3回の設計変更を行い、最初の設計と大きく変わりました。職員の意向を尊重していただき建物に反映させていただき改めて深く感謝申し上げます。

またこのきびしい経済状況のなか、建設工事を引き受けていただき、私たちの夢とアイデアを形にしていたいただいた株式会社旭工建様にも感謝を申し上げます。入札後の人件費、資材の高騰は予想以上になり、法人としても最も辛い状況になりました。しかし、つばさ共同保育園の工事経験を活かして新たなものを提供していただきましたこと、とりわけ現場責任者の東さん、谷さん、土井口さんには、深い感謝を申し上げたいと思っております。

最後に今日無事に新園舎竣工式典を迎えることができましたことは、地域の方たちとりわけ近隣の皆様方のご協力があればこそだと思います。工事期間中には大変なご迷惑をおかけしたと思っております。工事過程をあたたかく、見守っていただき今日を迎えることができました。重ねて感謝を申し上げます。

最後に本日ご臨席いただきましたお一人お一人に対し、心からのお礼を申し上げます。これからも試行錯誤するであろう、アトム共同保育園の歩み、とくに次代を担う若い職員に深いご理解と厚いご支援をいただきますようお願い申し上げます。本日はまことにありがとうございます。ありがとうございました。

ご挨拶

アトム共同保育園園長 田丸 あけみ

2014年4月から園長に就任致しました。田丸 あけみです。どうぞよろしくお願い致します。

私はアトム共同保育園の前身、アトム共同保育所で6年勤務、アトム共同保育園で9年、アトム歴15年で今年園長に就任致しました。就任早々建て替えによる東保育所を間借りしての保育はこれまでに体験したことのない大きな不安をもちながらのスタートでした。しかし東保育所の方々のご支援、ご協力で大きな事故もなく過ごせたことを心から感謝いたします。

また地域、とりわけ近隣の皆様方には工事期間中大変なご迷惑をおかけしました。工事過程をあたたかく、見守っていただき今日を迎えることができました。本当にありがとうございました。こころから感謝申し上げます。

このすばらしい新園舎で日々行なわれる保育の特徴をお伝えしたいと思います。

熊取で0歳児保育を最初に開始したアトム共同保育所（アトム共同保育園の前身）は、長年にわたり0,1歳児の乳児保育のみでした。1989年2歳児保育開始、1993年3歳児保育開始、1994年4,5歳児保育を開始したことで、無認可保育所でありながら0歳から5歳児までの就学前の保育、とくに当時町立保育所ではカバーできない保育の必要に应运りました。

町立保育所がカバーできない子育て支援に携わることは、多くの困難がありました。目の前の子ども、卒園児、そしてその家族から学ぶことが最大の研修であり、それに加えての園内外での学習、あらゆる研修によって、その困難を乗り越えてまいりました。その伝統は、いまでも引き継がれております。

そのなかでとくに大切にしていることは、以下の通りです。

まず第一は、「ヒトから人間へ育てる」ことを重要視していることです。

ヒトという動物が、人間として育つ過程は、とても複雑です。しかし大切なことは、簡単に言えば「人は一人では生活できない」ことの自覚が育つことです。

就学前の子どもにとって、大切なことは、他人と自分は違うということの自覚ができることです。子どもは自分と他人が違うということがわかることは、そう簡単なことではありません。自分の思っていることは、他人も一緒、わかってくれているものという勝手な思い込みからのケンカが多いです。ケンカの原因も実は当事者同士でもわからないことが多いのです。ケンカを引き起こしている気持ちを伝える手段をもたないからです。身振り、手振り、時には暴力的な表現で気持ちをぶつからせますが年齢が上になるにつれ自分の気持ちを表現できる言葉を獲得していきます。

コミュニケーション能力は、日々の生活の中での感情の交差、トラブルの経験のなかから身につけていくのです。怒りの気持ち、悲しい気持ち、うれしい気持ちなどを伝え合い自分と他人が違うことを認識していくのです。

そして自分を理解してもらえた安心感は他人を理解してあげることにつながっていくと思います。人生の最初の6年間に、このような他者との関係づくりの体験をすることで、思春期・青年期において自分の気持ちを言語化できない苦しみや誰にも分かってもらえない絶望感に陥ることをなくすることができるのだと思います。

第二には、子どもたちに、自分自身のもつ意欲に気づかせ育てる活動です。

子ども自身がこの遊びをしたい、この遊びはしたくないと自分で選別できることの重要性を強調したいと思います。子どもが興味をもつことは、ほんとうに多彩です。個性的です。

虫や植物など自然に興味をもつ、機械的な動きに興味をもつ、音に興味をもつ、体を動かすことを喜びとするなど、子どもはみな、大人に強いられなくても、また賞賛されなくても、子ども自身のなかに個性的な意欲を秘めています。それを大切にすること、これが現在の困難な時代にあっても、自分自身の幸せを求める「火種」（服部祥子教授）を育てることだと思います。

「好きなことだけをさせているとわがまま勝手な子どもに育つ」「みんなと一緒にできない協調性のない子どもでは心配だ」とよく言われます。しかしかつて、50年前、60年前の子どもたちは自分たちで好きな遊びを好きな時間にする自由があったと思いますが、わがままな大人ばかりが育ったわけではないと思います。

かつての子どもは、さまざまな大人の群れ、異年齢の子ども群れのなかで、ぶつかったり、抑えられたり、押し返したりするなかで、折り合いをつけて暮らす方法（「協調性」）を身につけていったのです。

保育園は、子どもの群れです。子どもの意欲を育てるために個々の意欲に沿い、個性を自覚し、相互の個性を尊重する関係を育てますが、群れを構成するひとりひとりが、どうすればともに心地よい時間、共同の生活を作れるかを子どもたち自身に考えさせ、子どもたちがお互いに納得できる関係、時間、空間を作り出せるようにしていきます。これは、子どもたちにとって厳しい時間であり、このなかで自分と友達との折り合い（「協調性」）をつけることを学んでいくのです。

子どものことは子どもに決定させる。大人の管理で大人の思いどおりに子どもを操作することが一番良くないことを、ここで働く保育士は自覚しながら保育をしていきます。

第三には、安心、安全なバランスの良い食事の提供です。

なるべく添加物の少ない食材、季節の野菜、新鮮な国産の肉（牛肉は使用しません）、出汁は昆布、鰹節などからとっております（化学調味料は使用していません）。

子どもの残食や人気メニュー、不人気メニューのアンケートをとり調理方法を改善、または献立に反映させます。最近料理苦手な若い親たちも増えてきておりますので離乳食講習会や給食試食会も予定しております。

第四には、大人同士（親、職員）の助け合い、学びあいを重要視します。

子どもは、すでにふれましたように、日々多くの体験をして成長していきます。しかし、大人はなかなか子どものようには順調に成長できません。大人は、しばしば自分の経験したことを常識と思い、一般的なことと錯覚し、その判断で、自分が経験していないことが生ずると、当然のように違和感をもち、一方的に他者を非難することも、現代ではしばしばです。

しかし各自の物差しは、経験の違い、育ちの環境の違いで異なるのです。その違いをお互いに理解するためには、違和感があつたとき、またトラブルが生じるごとに、なぜ違ったのかどこが違ったのかということ、話し合う以外に解決の道はありません。

子育ての方法、子ども理解の仕方、園への要望などなど親と職員が、親同士が、また職員同士が、面倒だけれど話し合いを持たなければ、自分の言い分の言いたい放題の大人集団になり、職員と親、親同士、職員同士がいがみあい子どもをとりまく園の空気は最悪になるでしょう。建物は立派でも中身が最悪になることを防ぐために『トラブルは自己紹介』という言葉を含いことばに、トラブルごとに理解が進むよう話し合いを進めていきます。個人懇談・クラス懇談会はその為の場です。職員会議も、これまでの蓄積を引き継ぎ重視します。

つい先日、保護者会主催で保護者、職員が一同に会し『大人のための懇談会』が行われました。

主にアトム共同保育園の歴史、保護者と職員の関係づくりに関する話の話し合いがもたれました。

そして今日、OJOB 保護者を中心に構成される「アトム・つばさ共同保育園を育む会」主催の『アトム寄席』が開催されます。この「育む会」は、保護者の卒園後の交流を継続し助け合いの関係を作り出すだけでなく、地域づくりへの参加意欲も作り出しています。このような保護者の方々の力は、在園時代の懇談会の蓄積が生み出したものだと確信致しました。地域を作る大人が増えると住民が住みやすい町づくりにつながると思います。

保育園内だけに留まらず、地域をつくり、子どもが育つ時代、社会をつくるという広い視野をもちながら運営に携わっていく所存です。

これからもどうぞよろしくご依頼致します。

新たなスタートの始まり！！

田丸 あけみ

いよいよ、11月から新園舎での生活が始まります。

季節も、冬に向かっていますが、気持ちは、新年度が始まった！という思いです。

完成したばかりの新園舎を見ながら、子ども達や大人達がここでまた、数々のドラマを繰り広げてくれる事を楽しみにしています。

地域の方も連日、アトムの前を通りかかり、私たちに声をかけてくれます。皆さんが園舎の完成を待っていていたのが、とても伝わってきます。地域の方々にもぜひ、アトムを利用して頂きたいと思います。

私は、今年の4月から園長になりました。園長一年目の38歳です。

家族構成は、義父、義母、義姉、夫、長女（11歳）と和泉市で暮しています。

嫁・妻・母業はマイナス点が付くほど出来ていません。今の私の悩みは、仕事と家庭のバランスを上手に取れない事です。どうしても仕事に偏りがちで、家の中が大変な事になっています。

私は園長でありながら、出来ないこと、苦手なこと、不器用な所が人一倍あります。

幼少期は、それがコンプレックスでした。私が生まれたのは1976年ですが“自分の事は、自分です。助けてもらう事は恥かしい事。弱音は吐かない”と教えられてきた時代でした。

しかし、1996年に、アトムと出会いその考えは大きく変わりました。“出来ない事は、助けてもらえばいい、感じた気持ちは表現しないとわからない、ありのままの自分でいいのだ”と、当時の先輩保育

次は、私がその役目を担う番だと思っています。「人が人間として育つ為に、どんな体験が必要なのか？」を、考え続けていきたいです。

私は、園長としての経験も浅く、肩書きがとても重く感じる事もありますが、皆に助けてもらいながら、日々学び！という気持ちで、前に進んで行きたいと思います。

職員と保護者、保護者同士は、共に子育てを担う仲間です。保育園生活の中で、子育て仲間が増えていく事を願っています。保育園に対しても気になる事があれば、遠慮せず直接保育士に、伝えてほしいと思います。

どうぞ、よろしく願います。

最後に、11月から新園舎で過ごす中で、いくつか守っていただきたい事があります。一人一人のマナーで心地よく生活し、園舎も大切に使用していきたいので、ご協力よろしくお願いします。

- ① 駐車場にあるマンホールの上に、車を乗りあげないで下さい。破損の原因となります。
- ② 靴箱は、各クラスの前に併設されているので、黒色の部分のみ靴で歩く事が可能なので、そのまま下駄箱まで行って下さい。茶色の部分は靴での歩行は禁止です。
- ③ 駐車場内は、必ず子どもと手を繋いで下さい。朝は、清掃車も駐車場内に入るので、十分注意して下さい。
- ④ 近所迷惑になりますので、特に夜は静かにする事を心掛けてください。
- ⑤ 路上駐車は、絶対にしないで下さい。近隣住民の方のご迷惑になります。
- ⑥ 公道を走る時や駐車場内は、車は、減速走行して下さい。危険です。
- ⑦ 送迎時の一方通行を守って下さい。
- ⑧ 徒歩での送迎の方は、徒歩専用通用門から出入りして下さい。

11月の開園にむけて、引っ越し作業や、地域への挨拶周り、園内の掃除などたくさんのお手伝い、本当にありがとうございました。